

---

# 遭難と病人

KAITO Y

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
遭難と病人

【コード】  
N19950

【作者名】  
KAITYO Y

【あらすじ】  
絶望の類似、物の例え

この海で漂流を始めてもう何日になるのだろうか。体を締め付けるライフジャケットの痛みと飢え、そして何より一番飲みたいはずの水に囲まれてそれを口にできない残酷な仕打ちのせいでもう数分前の事も思い出せない。見えるものといえば見渡す限りの水平線と時折それを覆い隠す波の壁しかない。だが何よりも怖いのは自分の足の下数千メートルと広がっているだろう海の中。そしてそこに潜む生物たちだった。

自殺はできない。舌を噛む勇氣も、水に沈む勇氣も無い。なるべくゆっくりと苦痛も少なく死にたいが、何故か私の体は生き長らえている。まるで誰かに死ぬなと呼び掛けられているように。だが海水に浸かり萎みきった皮膚と窪んで露骨の形がはつきりと見えるようになった腹を見下ろすと、何故生きていられるのが不思議になった。

やがて日が沈み、水に浮かんだままウトウトと眠りにつきそうになった頃、突然それは私を襲った。体中に群がり肉を啄む海鳥の群れ、水中では小魚が足をつつき、サメが腹綿を食いちぎる。あまりの激痛に目を覚ますと、ぼんやりと明るいアルコールの臭いのする部屋で白い服を着た女性が見下ろしていた。

「あら、意識が戻ってますね。大変、痛いでしょう」

そう言っただけで看護師はモルヒネの入った注射機を押す。それは点滴用の針を抜けて私の体を満たし、つかの間の安樂を与えてくれた。

ピーピーとベッドの隣に佇む機械が鳴る。人を生かす機械だ。殆ど動けない体を少し傾けてそれに目をやると小さな赤いボタンが見えた。あれさえ押せば全てが終わる。だが声など出ない。「殺してくれ」という声はただのうめき声となって消える。今の私は意識の詰まっただけの人形に過ぎない。まるで海の上で孤独に死を待つ漂流

者のようだ。叫ぼうがもがこうが誰も私を見付けてはくれない。また体中に激痛が走った。切っても切っても増える腫瘍は気絶しそうなほどの痛みで私を苦しめる。だが効き始めたモルヒネが徐々にその痛みを和らげ、私を波に揺られるようなフワフワとした感覚に包み込んだ。

また海が見えてくる。先の見えない暗い海で私はまた遭難を始めるのだろうか。それとももう死んだのだろうか。やはり海は黒く、濁っていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1995o/>

---

遭難と病人

2010年10月8日23時39分発行